

身近な歴史
再発見!

あなたの街の思い出の場所はどこにありますか？

未来に紡ぐ 戸塚の今昔

広報よこはまにコラム「つむぐ戸塚のいまむかし」掲載中！

取組のご紹介

オーラルヒストリーの紡ぎ方

1 街に関わるご自身の体験やエピソードをお聞きます



2 聞いた話を記録します



3 話し手に聞いた話の中で公開してよい情報の承諾を得ます



4 聞いた話を基に地域学習や街歩き、朗読会等で追体験します



5 新しい視点や価値観で街を眺めると街への理解が深まります



『未来に紡ぐ戸塚の今昔』 令和6年3月
横浜市戸塚区役所区政推進課
〒244-0003
横浜市戸塚区戸塚町 16-17
電話番号：045-866-8326
ファックス：045-862-3054
E-mail:to-kusei@city.yokohama.jp
横浜市地形図複製承認番号令6建都第9004号



「日常生活の場」に「誰かの思い出」が重なると、見慣れた風景は「一つのランドマーク」特別な場所に一変します。

戸塚区では、身近な歴史を知りまちをもっと好きになってもらうために歴史プロジェクトを進めています。

その一つであるオーラルヒストリー『未来に紡ぐ戸塚の今昔』では、戸塚区在住・在勤の様々な世代の方々を取材対象とし、昭和から平成、令和に至る生活エピソードを収集しています。ここでは、今まで集めたエピソードの一端をご紹介します。

あなたの街の思い出の場所はどこにありますか？

街の風景と暮らす人の心情や記憶、日常生活を人の語りを通して体感したり共感したり、目には見えない風景を追体験することができるのがオーラルヒストリーの醍醐味です。語りで紡ぎ、たどる街探訪に出かけましょう。

04 地域史を知ることは仲間になる始まり

03 ドリームハイツで実現した地域の幸せの福祉

01 大踏切で見た横浜空襲と箱根駅伝

02 西口再開発前のかつての旭町通商店街

00 ここでご紹介しているエピソードに登場する場所

01 大踏切で見た横浜空襲と箱根駅伝



戸塚町在住
おかだ えいいち
岡田 栄一氏（令和5年聞き取り）

私は昭和 16(1941) 年5月、太平洋戦争が始まる少し前に生まれました。終戦は5歳だったから記憶は薄々ですが、横須賀の基地にいる父に面会するために逗子に行き、帰りの電車が途中で止まるなか、母に手を引かれて泣く泣く戸塚に帰ってきたら、横浜駅方面の空が赤かったことは覚えています。線路をぞろぞろ歩いている人がいて何だろうと思っていた記憶がありますが、それが横浜空襲だったと知ったのは後のことでした。



かつての大踏切 出典：横浜市オープンデータポータル



かつての大踏切は現在はデッキになった

中学は戸塚中学。その時は、ワンマン道路をつくっている最中で、2年間工事のワンマン道路が全校マラソンのコースでした。ワンマン道路ができる前まで、箱根駅伝は戸塚駅脇の大踏切を通過していました。踏切の遮断機は手動で、目視で大丈夫なことを確認して渡っていました。今の駅伝の戸塚中継所が、昔は大踏切。箱根駅伝は「遮断機が降りて涙を呑んで」という名アナウンスもありましたよね。後続からリードしていても踏切待ちで追い付かれてしまったのを見たことがあります。選手もがっかりしていました。

学校を出てから、家業の乾物屋に加えて氷も売っていました。戸塚には工場がたくさんあったから、飲み屋がとて多く、まだ家庭にも飲食店にも冷蔵庫がなかったから大忙しでした。遊ぶこともできないくらい忙しかったけど、飲み屋がたくさんあって人との交流があった頃は楽しかったね。夢中で仕事をしてきたから、一緒に頑張ってくれた妻にはとても感謝しています。

02 西口再開発前のかつての旭町通商店街



仁天堂薬局代表 旭町通商店街会長
ゆかわ ひとし
湯川 仁氏（令和5年聞き取り）

僕は昭和 35(1960) 年生まれで、今は 64 歳。戸塚小に通いました。途中で上矢部小学校ができたけど、下郷小や南戸塚小はなかったの、みんな遠くからバスで戸塚小学校に通っていました。クラスが多くて、同じ学年でも顔を知らない人もいました。校庭はほとんどプレハブ校舎。一番思い出に残っているのは、今のフォーラムの辺りが全部田んぼだったこと。田んぼで、よくザリガニを取りました。100匹くらいかな。紐の先にサキイカを結んだら、ザリガニが食らいついて離さないから、面白いほどたくさんとれて、よく遊びました。

今の戸塚図書館の場所には市営プールがありました。僕が小学生の頃は、プール帰りに駄菓子屋に寄って、ラムネやお菓子を買って帰りました。

戸塚郵便局の向かい、今はマンションが建っているところに当時はバスセンターがあって、みんな駅までずーっと歩いていました。朝、バスが着くと道が人でいっぱいになっちゃって、毎朝、人の足音で起こされていました。その頃は歩きながらタバコが吸えてね。バスを降りて、たばこを吸って駅まで歩いて、駅に吸い殻をポイ捨て。これは迷惑でしたね。夕方は、電車を降りて、まずはそこでタバコを吸って、うちの周りがほとんどに吸い殻だらけ。今は禁煙だけだね。駅前は今以上に飲み屋さんも多かったし、夜中まで結構賑やかだった覚えがあります。

実家はもともと呉服屋をやっていたんだけど、今の姿になる前の商店街は景気も良く、商店街のくじの景品が「海外旅行」なんてこともありました。しかも商店街の人たちがお客様を接待。これが大人気で、平成 19(2007 年) に戸塚駅周辺の再開発が始まるまでやっていた。

僕は 30 歳くらいで仁天堂薬局を始めて、再開発の前から旭町商店街の会長も務めています。戸塚が好きだから、これからもお祭りなどのイベントで盛り上げていきたいと思っています。新しく引っ越してきた人や若い人たちと、古くから住んでいるお年寄りをうまく融合させられたらいいね。



昭和 61 年頃の旭町通り商店街 出典：横浜市の昭和 所蔵：横浜市史資料室

03 ドリームハイツで実現した地域の幸せの福祉



俣野町在住
しまづ れいこ
島津 禮子氏（令和6年聞き取り）

昭和 47(1972) 年頃、ご縁があってドリームハイツを買いました。入居した当時は子供がすごく多くて、幼稚園に入れない子がたくさんいました。それで、地域のお母さんたちが自主保育を始めました。それが、ドリームハイツの福祉の始まりです。ドリームハイツに引っ越してから子育てと介護をするなかで、「絶対にこれは地域ぐるみでやらないといけない」と思いました。



昭和 43(1968) 年
ドリームランドの敷地の一部に
建設されたドリームハイツ



令和元(2019) 年
出典：国土地理院空中写真閲覧サービス

平成6(1994) 年、有償ボランティア「ドリームふれあいネットワーク」をつくりましたが、これを始めた時は、本当に奇跡みたいなことが起きました。最初に雨がシトシト降る寒い日に説明会を開いたのですが、集会室の椅子が足りないくらいの人が集まりました。皆が関心を持っていたのね。そして、「こういう皆さまの助け合いの団体をつくりたい」と説明して「お手伝いをしてくださる方はいますか?」と言ったら「会計なら私がやります」「広報なら私がやります」と、みんなが手をあげてくれました。すごいでしょ。

有償ボランティアは、家事サービスから看取りまで、その時に必要なものをみんなでつくってきました。そして、最終的には「ふらっとステーション・ドリーム」という居場所ができました。

子供がたくさん居た頃の子育て支援から始まり、次に高齢者の配食サービスや介護、そして障害者の支援やまちづくり。そうやって、ドリームハイツの福祉が充実していきました。

今、地域には、色々な福祉の事業所があって、居場所もあるし、介護保険も有償ボランティアもあります。「ここで安心して死ねるわ」と今は思っています。

04 地域史を知るとは仲間になる始まり



戸塚歴史の会名誉会長 泉区飯田町在住
ありま すみのり
有馬 純律氏（令和6年聞き取り）

私は今、90 歳です。尋常小学校にあがって、途中で戦争が始まって国民学校になりました。小学校から旧制中学校の頃は、一番大事な時期ですけど、戦時中だから教科書はない、靴も裸足でつぎはぎだけの洋服で学校に通いました。

昭和 30 年代初め、私が教師として鹿児島から横浜にでてきた理由は、勉強したかったからです。横浜に来れば夜間大学とか通信教育もあるし、接する人が田舎とは違う。ご縁があって、当初は珍しかった中和田小の北分校（現在の泉区飯田北いちよう小学校）に赴任しました。畑の真ん中にポツンとある学校でした。

※昭和61(1968)年に戸塚区から泉区が分区しました。



昭和 38(1963) 年



令和元(2019) 年
出典：国土地理院空中写真閲覧サービス

色んな勉強をして、一番良かったのは、地域の歴史を知る郷土史をやったことです。地域のことを知ると、地域の人はよそ者を私を「この人は俺たちの味方だな」「俺たちのことをわかってくれる人だな」という取り方をしてくれます。中には「なんだお前が来たのか」と口の悪い人もいます。ところが、私が歴史を知っていると知った途端に態度が変わり、すごく大事にしてもらえるようになったこともありました。そういう意味でも地域の歴史を学んだことは役立ちました。

昭和の 30 年～ 40 年頃の柏尾川沿いは工業地帯でしたが、中和田地区は、野菜作り中心の農村地帯でした。大人は一日中働いているから、児童の中には子守のために、児童が赤ん坊を背負って小学校に来る子もいました。当時は教師も友達もそれを温かく受け入れるおおらかさがありました。忙しい農家のお母さんが綺麗にして外に出られる時は授業参観だけ。農家の人も学校の行事には文句を言わずに協力的でした。だから、私は授業参観の時「普段の勉強のことは俺に任せておけ。今日は皆で歌を歌おう」と言って、子どもの勉強がどうのと話題にはせずに、みんなで歌を歌っていました。今より教師と生徒・保護者の距離が近かったように思います。